

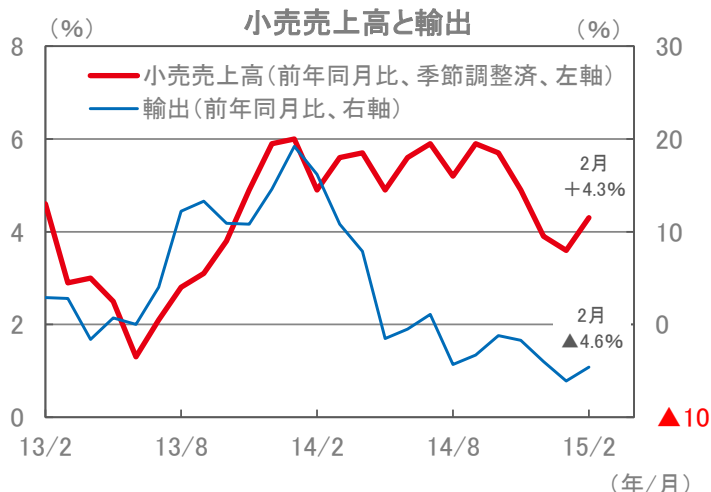
今日のトピック 最近の指標から見る豪州経済(2015年4月)

消費に回復の兆し、景気は底堅い推移へ

ポイント1 消費に回復の兆し

輸出や設備投資は弱含む

- 小売売上高は、住宅ブームのなか家具や家電が増加したことなどから足元で伸び率が持ち直しました。消費は、ガソリン価格の低下による購買力の向上などから緩やかな回復が見込まれます。
- 輸出は、資源価格の下落により不透明感が強まっています。設備投資は、鉱業関連などが軟調に推移しています。一方、住宅投資は、緩和的な金融環境の中で堅調な推移が続く見込みです。



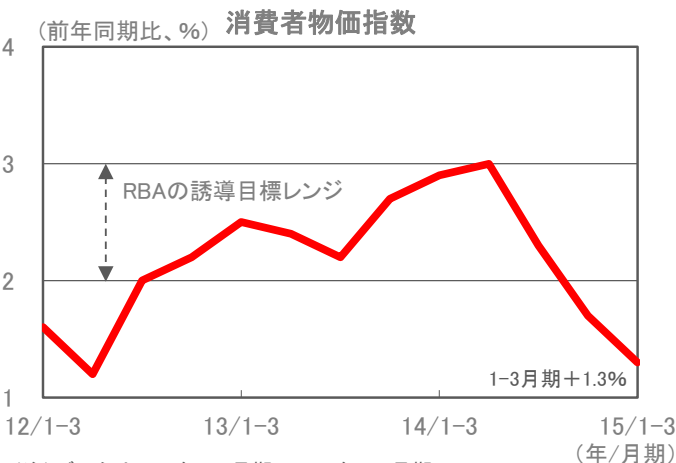
(注) データ期間は2013年2月～2015年2月。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価上昇率は低下傾向

追加利下げ観測が強まる

- 賃金上昇率の低下や原油・資源価格の下落などから、物価上昇率は低下傾向にあります。原油・資源価格や賃金上昇率は引き続き安定した推移が見込まれることから、物価上昇率は当面低位で推移する見込みです。
- 豪州準備銀行(RBA)は、4月7日の金融政策決定会合で政策金利を過去最低の2.25%で据え置きました。RBAは景気下支えのため追加利下げを実施する可能性があることを示しました。



(注) データは2012年1-3月期～2015年1-3月期。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 輸出や設備投資の弱さを消費や住宅投資が下支えし景気は底堅く推移

- 輸出や設備投資の弱さを消費や住宅投資が下支えし、景気は底堅く推移する見込みです。
- 物価上昇率が低下したことなどから、追加利下げの実施が見込まれます。ただし、不動産価格が上昇基調にあることや消費が底堅さを維持すると見られることから、利下げは小幅にとどまると考えられます。
- 比較的高い金利水準が維持され、日銀の金融緩和が続くと見られることから、豪ドルは対円で底堅く推移する見込みです。
- 底堅い景気を背景とした企業収益の拡大や高い配当利回りなどが魅力となり、株式やリートは上昇基調が続くことが期待されます。

ここも チェック!

2015年03月24日 最近の指標から見る豪州経済(2015年3月)

2015年03月03日 オーストラリア、政策金利を据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。